

テーマ【ディスポーザーについて】 産官学意見交換会の報告

1. はじめに

会員の皆様はディスポーザー（以下 DSP と略）をご存知でしょうか。

右の写真のように、台所のシンクの下部に設置さ



写真-1 ディスポーザー設置状況

れ、生ごみを砕いて下水道に流す装置のことです。

直投式は破碎塵芥を下水道へ流下する方式で、下水処理場への負担が大きいとされ国内で普及していません。それどころか、札幌市では条例で禁止しています。処理装置付きは、マンション中心に利用が広がっているようです。

今回は、立場は異なれど、以前関わった方々が意見交換の実行委員会を結成し、開催することとなりました。

リージョナルステート研究委員会の地域主権分科会においても DSP について以前研究した時期がありましたが、当時は具体的な情報が少なく、議論は深まっていませんでした。こうした経緯があり、今回の意見交換会は日本技術士会との共催で実施することとなりました。

開催日は平成 26 年 1 月 27 日(月)、参加者は技術士会会員 4 名(本分科会より)、非会員 23 名で、その内訳は大学教官、自治体(主として下水道部局)、メーカー社員等で、札幌エルプラザ環境研修室 1 にて開催しました。

冒頭で、主催者から以下 3 点の問題提起があり、情報交換の意義が説明されました。

- カラスでゴミステーションが汚される光景を見続けることは耐え難い
- 道が DSP の調査を行って約 10 年経つが、実際普及は進んでいないと聞いている



写真-2 カラスによる被害状況

- ポジティブな面とネガティブな面がある

2. 基礎的な情報

(1) 道庁担当者からの報告

- ・ 2 市 8 町 1 村で直投型 DSP の利用が許容
- ・ それぞれの市町村で普及には差がある
- ・ 道は平成 18 年度から、認可手続きを明確にし、事務簡素化に取り組んできた

(2) N 町について

- ・ 現状は 224 軒での設置
- ・ 使用料は月 500 円で、設置時に 25,000 円の補助(子育て世帯にはさらに 25,000 円を補助)
- ・ 普及は伸び悩んでいる

(3) T 市について

- ・ 現在は 83 基の設置で、料金は税込み 525 円
- ・ 使用料は、普及率が 30%程度と想定し、管渠清掃費・処理場管理費・事務費の増高を勘案
- ・ 平成 16 年に DSP が条例に位置づけられた当時は質問などが相次いだ

(4) 一般参加者から

- ・ 学校給食の調理室、病院、防衛施設などで、かなり普及していることに注目すべき

(5) アドバイザの北大工学部高橋正宏教授

- ・ DSP には『下水道システムの付加価値を高める』ことと『資源の回収促進』の二つの役割が期待される
- ・ 発祥の地であるアメリカではごみ収集回数は日本より少ないことから、DSP 利用は一般的
- ・ 処理装置つきの DSP は、日本固有の存在

3. DSP 導入を踏まえた意見

- ・ 歌登町では、生ゴミが減り「冬季間」「高齢者」のゴミ出しが減って大きな価値があった
- ・ N 町では、家庭での夏場の生ゴミの臭いも解決できており、今後も使用したいとする割合が 90% 以上に上った
- ・ DSP によりカラスの被害等が防げているが、生ゴミの有料袋に比べて、月間使用料はやや高額と受け止められている。
- ・ 下水道施設への影響は認められず、本管での詰まりもなかった
- ・ 水質・汚泥発生面等で、下水道への影響がそれほど大きくないことがわかったので、使用料金の水準も再考察されるべき
- ・ 処理装置付き DSP での処理装置維持費は低廉ではなく、環境面での意義は不明
- ・ 日本での DSP 販売価格は高価すぎる
- ・ 届出無しに DSP を設置している家庭はかなりの数で、実態は把握できない
- ・ 家電製品と同水準の認証があれば、不適切な製品・販売方法であっても、法律上流通は止められない。
- ・ 若い方は設置してくれるが、高齢者は消極的
- ・ 運転音はうるさいと感じた方が少なくない

4. 今後に向けた話題

ごみの資源活用という観点から、「市町村でのゴミ処理部局と下水道との連携は重要」「既存ゴミ処理施設でも、ゴミ量が減れば、施設の運転規模縮小等によりコスト縮減が可能なケースもある」「生ゴミがなくなれば、ゴミ収集作業が随分楽になる」などの意見があった。

将来へ向けて、「水洗トイレの普及により介護の労力が減ったのと同様の効果が、DSP にも期待できるのであれば、高齢化社会への価値がある」という観方もあった。

アドバイザからは「上下水道施設の維持・運営は、人口減少に伴い益々大変になる」「そこで、施設の利用域を広域化する方策と、縦割り行政を解消して合理化する方策が検討されており、DSP は後者のツールのひとつ」「生ゴミだけでなく、有機物・窒素りん資源の要として下水道や DSP が果たす役割は大きい」という示唆があった。

5. 終わりに

今回は、極めて行政的なテーマについて、技術士を交えた情報交換を行いました。次々と発言があり、盛り上がった会合となりました。

DSP は絶対善でなければ悪でもない装置であり、便利であるが高価であるため、行政側がまち全体でのコストや導入メリット・デメリットを総合的に評価して検討を進めるべきという意見が基調となりました。

人口減少下での下水道事業運営のあり方や資源としての生ごみの位置づけにも及ぶ、幅広い話題となったことで、リージョナルステート研究会にとっても意義ある共催となりました。

今後は、ゴミ関係者を交えての意見交換会を開催できると、議論・認識が深まると考えています。



写真-3 意見交換会開催状況